

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ひーと海田中央教室		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 30日		2024年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33人	(回答者数) 17人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者にとって学習や集団活動といった日々の療育に十分対応できるスペース、専門性のある職員の配置や対応する職員数など、適切な支援につながる環境と体制	一人ひとりの特性を理解し、学習時や遊びの時間には必要に応じて落ち着いて取り組める環境の提供やお子さまの活動(創作や運動)意欲を体現できるよう都度対応している。また、スタッフの専門性を活かした専門支援を実施。	十分な環境がある分、お子さまにとって刺激となるものがある。視覚とならないよう配置や設置位置などを今後検討していく必要がある。また、スタッフの配置数に問題はないが、療育の質を高めるうえで今後も他教室との意見交換や事例検討会を実施し知識を広げていく。
2	お子さま(保護者様を含む)との関係構築と満足度	日々お子さまの様子や家庭環境の把握など、必要な情報をスタッフ間で共有することで適切な支援を行えるよう行動している。また、利用者の様子(変化)を保護者様とも共有することを優先順位を高くし対応している。	ご家族や相談支援員とも連携し、保護者様のニーズやお子さまへの必要な療育方針を継続して検討していく。また、保護者会といった情報共有の場や日々の療育に接していただけるイベントを今後多く参画していく必要があると感じている。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部との連携(主に児童クラブや児童館といった地域の子どもの活動、地域住民や病院等)	主に事業所内での集団活動を主とした療育方針があり、他の児童との接触が少ない。また、利用者の特性から連携が難しいと感じる面もある。	少しづつでも地域との関係性を構築し、イベントとして事業所以外の施設を借りて交流機会を設けていきたい。
2	事業所内での各種研修(感染症対策や虐待防止等)や避難訓練の実施状況の報告やマニュアル等の周知	実施時にSNSへのアップやhugへの記録で保護者様に向けた報告は行っている。しかし、対面での報告がすべての保護者様に対して出来ていないのと、その日の利用者のみが避難訓練を実施していることが全体的な周知に至っていない要因と感じる。	研修や避難訓練についてはSNS・LINE等のオンラインや通信を活用し、全体的な周知を行っていく。
3	利用者の卒業における次のステージ(福祉サービス事業所等)との連携	現状利用者は小さなお子様が多く、卒業後の福祉サービス等を利用する事案が発生していない。	今後該当する利用者を考え、福祉サービス等への移行が対応できるよう地域の福祉事業連絡会等に参加し情報収集や関連各所に対し関係を深めていきたい。